

# 飯伊地域 林業将来ビジョン

(自立した元気な林業をめざして)

平成19年 1月

飯 田 市  
飯伊森林組合

## 目 次

1	地域材の活用について	
(1)	森林・林業の概要	1 頁
(2)	地域材利用拡大の課題と整備方向	2 頁
2	身近な里山の活用について	
(1)	里山活用の現状と課題	4 頁
(2)	里山活用の進め方	4 頁
3	エコツーリズム(林業体験)を活用した林業の活性化について	7 頁
(1)	現状	
(2)	方針	
(3)	推進に向けた重点項目	
図1	「地域の資源が循環できる森林・林業体系図」	9 頁
図2	「南信州木づかいネットワークの概要」	10 頁
資料編		
資料 1	森林・林業の概要	12 頁
資料 2	木材の流れ(現状)	13 頁
資料 3	木材の流れ(計画)	14 頁
資料 4	体験旅行受入状況	15 頁
資料 5	林内道路現況	17 頁
	用語集	18 頁

# 飯伊地域林業将来ビジョン

(自立した元気な林業をめざして)

## 1 地域材の活用について

### (1) 森林・林業の概要

#### ア 森林・林業の現況

管内の森林面積は、約 16 万 5 千 ha で、長野県の森林面積の 16% を占めており、森林率 86% と県下平均の 78% を大きく上回っている。このうち民有林は、13 万 4 千 ha で、管内森林面積の 81% を占めている。

民有林の人工林率は 48% で、その過半数の 59% がスギ・ヒノキで、特にヒノキは 42% に当たる 2 万 6 千 ha を占めている。【資料 1】

素材生産量は、2 万 9 千 m<sup>3</sup> で、うち管内消費量は 9 千 5 百 m<sup>3</sup> であり大部分は管外へ移出されている。【資料 2】

また、健全な森林を育成するため、間伐等森林整備を計画的に実施することが重要となっている。このための集団的な間伐の推進や高性能林業機械の導入、森林路網の整備などを推進し利用可能な木材の搬出を促進している。

#### イ 木材加工の現状

近年、(株)ウッド&アース、根羽村製材工場等が設置され、信州遠山スギ、信州根羽スギなど信州木材製品認証制度に基づく認証を受けるなど、銘柄化を進め地域材の需要拡大を図っているが、製材工場は 26 社で小規模工場が多く、工場数も年々減少傾向にある。

木製品の出荷量は 2 万 7 千 m<sup>3</sup> で、うち建築用材の管内への供給量は 9 千 m<sup>3</sup> と推定され、管内木造住宅等の建築需要量約 2 万 m<sup>3</sup> (年間の木造住宅約 600 棟分) の 50% にも及ばない状況である。【資料 2】

また、木質ペレット製造施設も設置され、木質バイオマス利用にも取り組んでいる。

#### ウ 地域材の利用拡大状況

公共建築物の木造化、土木事業への木製品使用の普及啓発について、行政機関を主体とした飯伊地域木材利用促進連絡会議において実施している。また、地域の工務店・建築家等と連携した木造建築物の普及

啓発及び「木の集い」による地域材を活用した住宅見学会や講習会の開催等を林業関係者と行政の連携による飯伊地域林業活性化協議会において実施し、民間住宅への地域材の利用啓発に努めている。

## (2) 地域材利用拡大の課題と整備方向

地域の森林資源の充実【資料1】が図られ、間伐材等の搬出が促進されつつあるなかで、地域での新たな木材需要に対応できる地域材製品を安定的に供給し、最終的に利益を山林にまで還元するための体制を整備することが急務となっている。

このため、山側（素材生産から木材製品加工流通）から街側（木材製品を消費する工務店・設計士からエンドユーザー）までの一貫した木材の流れを次の様に再構築する必要がある。【図1、資料3】

### ア．コストの低減

#### (ア) 素材生産コストの低減

素材生産コストを下げるため、集団的な間伐や高性能林業機械の導入と林内路網の整備をさらに推し進める。

#### (イ) 製品在庫の調整

工場での製品在庫を少なくし、製品等の在庫によるコスト負担を抑える。

#### (ウ) 製材コストの低減

信州木材製品認証工場等既存製材工場間での協業化を推進するとともに運転資金を確保するための基金の創設を進める。

また、木材生産量の増加に対応するための新設製材工場・製品ストックヤード等を飯伊木材流通センターに設置する。

### イ．部材の共通化

既存の流通グループを生かした緩やかな連携により、木造住宅の部材の共通化、製品の規格化を推進し、規格材による在庫等の一元管理を図る。

また、規格材の価格を明確化(積算根拠の明示)することにより、流通関係者やエンドユーザーに対し地域材利用の促進を図る。

### ウ．木材の高付加価値化

#### (ア) 生産履歴の明確化

違法に伐採された木材は使用しないという基本的な考え方に基づき、合法性、持続可能性の証明された木材・木製品の供給の促進を図り、エンドユーザーへのPRに繋げる。

(イ) B級材の販路開拓

曲がり等により利用できないB級材の販路を開拓し、木材価値の向上を図る。

(ウ) 端材等の利用

未利用木材の有効利用のため、ペレットストーブ・ボイラーの導入を促進し木質ペレット製造施設の稼働促進を図る。

(エ) 品質の保証

信州木材製品認証制度の活用等による信頼性の高い製品の提供や製品の強度データ等の蓄積により、製品の品質保証を行う。

また、必要なものには、グレーディングマシン等の導入により製品毎に強度データ等の明示を行う。

エ．森林所有者からの経営委託の推進

森林所有者からの経営委託を推進し、計画的な森林整備の実施と間伐材等の搬出の促進を行うとともに、立木の状態でのストックの確保を図る。

オ．工務店・エンドユーザー等への普及啓発

地域材を活用した住宅の現地見学会や木造住宅についての各種資料提供やセミナー、地域材の住宅展示場の整備等により地域材利用のPRを行う。また、ウッドマイレージの考え方による環境負荷コストの提示、PRを図る。

これらの体制整備を図るため、管内の木材の生産（伐採、搬出）から流通・加工（市場、製材、販売）、最終需要（工務店、エンドユーザー）までの木材関係者及び行政機関が連携した、地域材の様々な情報を公平に共有化し利用促進するためのネットワークとして「南信州木づかいネットワーク」を構築する。【図2】

また、地域材の情報ネットワーク化を推進するためには、組織の中核的な機能を担うことが見込まれる飯伊木材流通センターの機能強化（製材工場、製品ストックヤードの設置等）を図る。

## 2 身近な里山の活用について

### (1) 里山活用の現状と課題

飯伊地域は豊かな森林資源や気象条件に恵まれ、木炭生産、しいたけ栽培、山菜の採取など、森林と深く関わりあいながら収入の確保を図ってきたが、近年、様々な地域の実情により衰退の傾向にある。

一方で、飯田市などを中心としてグリーンツーリズムが定着してきており、体験の場として身近な里山を活用していくことへの期待感が次第に大きくなってきている。

また、「団塊の世代」が定年退職を迎える時期になってきており、こうした世代の多くが第二の人生を緑豊かな農山村に求めることが予想され、多くの山村地域にとって地域活性化や里山活用のきっかけとして大いに期待される。

こうした中で、里山活用希望者と山村地域の住民が、緑豊かな山村空間を活用することにより相互の交流と山村地域の活性化を図る必要がある。

### (2) 里山活用の進め方

地域の森林状況や情報を把握している森林組合が、里山活用についてコーディネートし、技術的なアドバイザーとなって里山の活用の中心的役割を担い、様々な里山の活用の新たな展開を図る。

#### ア．乾シイタケ

長年に渡って培われた乾シイタケ生産技術は全国トップレベルであるが、生産者の高齢化、後継者不足、獣害の増加などの要因から、その生産は年々衰退の傾向にあるが、森林組合が主体となって対策を講じ、乾シイタケ生産の振興を図る。

乾しいたけ生産技術指導書」の作成

獣害多発地を主な対象地とした共同ホダ場の創設、生産管理の徹底  
きのこのオーナー制度の創設及びシイタケ需要の拡大

乾シイタケを食材とした地域料理の発表試食会とレシピの無料配布  
シイタケ原木山の確保とその更新

#### イ．マツタケ

発生適地が多く、発生量はその年の天候に大きく左右されるもの

の、県下随一の産地となっている。

豊丘村など特定の地域でまとまった発生量が見込まれるが、他地域についても発生適地を掘り起こし、発生量の増に結びつくように現地指導を徹底するとともに、集出荷体制の整備を図る。

新たな発生適地の開拓、発生継続地を対象とした適切な発生環境整備の推進

発生適地のアカマツ林の健全な管理

集出荷など流通支援体制の整備

#### ウ．山菜類

生産量が少なく地域の特産品として認められるような生産量には達していないが、長野県は全国でも有数の「山菜県」であり、今後も国民のグリーンツーリズムやスローライフ志向が強まる中で、山菜などの自然食品に対する関心がますます高まることが予想される。

そこで、地域住民による生産の場の提供と、森林組合が主体となった山菜生産の指導を推進する。

様々な山菜生産適地を県研究機関などと連携し把握

天然採取型と遊休農地を活用した育成栽培型の2タイプを現地状況に合わせて区分し適切な生産管理プランを作成

契約栽培・集出荷などの体制整備、旅館業者や山菜加工業者などへの安定的供給による地域固有の味の特産品化

#### エ．木炭

生産者も高齢化し、後継者も不足していることから生産量も減少し木炭生産技術の衰退が危惧されている。そこで、今後の木炭活用のために次のような措置を森林組合が主体となって推進する。

既存炭窯の保全や生産者の把握、木炭生産技術の定着化資料の整備

土壌改良材、水質浄化材、消臭、調湿、電磁波遮断などの特性を活かした木炭の用途の拡大、生産の促進

木炭を自ら生産したい県民のための、木炭生産者の紹介斡旋・体験的炭焼きの推進

#### オ．花木

里山を活用した花木生産は、山林に自生している樹木の枝などを採取し、花き類を扱う市場等に枝物として出荷するもので、生産者

の短期収益や森林資源を多面的、継続的に活用するものとして有効である。

花木は間伐をした林内に陽光が射し込み、対象となる植物を残す林内整備を行うことにより育成されることから、森林組合が主体となり間伐などの森林整備に併せた花木生産に取り組む。

市場調査や情報収集、対象となる花木の生育地域の把握

花木生産の品目の固定や数量の確保、生産技術の指導

生産品の集出荷体制や生産者の組織化の支援

花木生産に適した林内整備の実施

遊休農地を活用した花木栽培

#### カ．様々な里山活用に向けた取り組み

地域住民が連携して里山を含む地域活用プランを策定し、利用者に提示することにより、里山の様々な活用を推進する。

地域外の人々との交流により人と人との結びつきが生まれ、人的資源がリピーター確保の大きな要因になると考えられ、地域の収入源の増大とともに、地域の埋もれた宝が発掘され、より以上に魅力ある地域に生まれ変わる可能性がある。

観光客が自ら観光資源となるような地域の緑づくりに参加できるような体制づくりや支援体制の構築

里山における薪山の提供情報など、里山活用情報の収集

多くの県民が森林に簡単に入れるような間伐材を利用した歩道整備などの「森に誘う小径づくり」の支援

間伐が必要な林分の間伐搬出指導と、そこで得られた間伐材の地域活用指導

里山に埋もれている小さな史跡や景観などの発掘、それに至る間伐材を用いた小径づくりなど、地域の宝を活用した里山活用プログラムの構築

地域住民の意向を把握しながらの里山活用プログラムづくり

里山に相応しい広葉樹林を活用した山づくり

エコツーリズム的な里山の活用方法の詳細については別項のとおり。

### 3 エコツーリズム(林業体験)を活用した林業の活性化

#### (1)現状

農山村は、食料や木材の生産の場のみならず、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等多面的機能の発揮の場として重要な役割を有している。また農山村という空間や役割を、地域住民の生産・生活の場としてはもとより、都市住民にも開かれた国民共通の財産としても、次世代に継承していく必要があり、滞在型余暇利用としてグリーン・ツーリズムが10年程前から行われるようになった。

こうした流れの中から、2001年からは南信州観光公社による「体験教育旅行」や体験型観光が始められ、自然や生活、文化、産業など、人々のありのままの生き様を体験し、来られた方々に南信州の良さを伝えられている。

学生団体の受入れは、色々な農作業体験も取り入れ徐々に増加したが、体験の内容は農業関係やアウトドア関係が主流で、林業関係については、受入れ方法や現地に行くまでの道路等が整備されていないため、現在は少ない状況である。

この地域では、インストラクターとなるべき人材は、現在のところ豊富にあり、またボランティアやNPO等も活用できる環境にある。【資料4】

#### (2)方針

「エコツーリズム」を取り入れながら、森林を体験の場所として利活用してもらい、「本物の体験」を通じて、森林の重要さや木材加工の楽しさを学び、合わせて地域の人達との交流を行うことにより、飯田下伊那の農山村の良さを広めていきます。

また、地域の子供たちにも体験を通じて、森林の大切さやこれからの林業を理解してもらうようにしていきます。

森林組合には、南信州観光公社と協力しながら、体験場所の斡旋や体験プログラムの作成、インストラクターの養成といった部分に、中心的な役割を担ってもらいます。

#### (3)推進に向けた重点項目

##### ア 体験プログラムの作成

- ・ 山林所有者に経済的メリットのある仕組みと採算性のあるプログラムを構築し、本物の体験を通して、地域の人達との交流をしていきます。
- ・ 農業体験やアウトドア観光・宿泊場所との連携し、魅力あふれる体験型観光を作り上げます。

- ・ 森の散策を行い、癒しのある森林を実感してもらいます。
- ・ 森の四季を活用した多彩なメニューを作成します。
- ・ 森や動植物の生態などについての説明し、人との関わりについて理解してもらいます。
- ・ 軽度の山林作業(間伐、枝打ち、植林)により、作業の楽しさと木材の出来るまでを学習してもらいます。
- ・ 間伐材を利用して、丸太切等の遊びの楽しさを提供します。
- ・ 材木の特性と利用方法について理解してもらい、木に興味を持ってもらいます。
- ・ 簡単に出来る木工体験や炭焼き、しいたけ等のホダ木づくり(菌打ち)を行い、それによってつくり上げた物をお土産として持ち帰ってもらいます。
- ・ 植林を各自の記念木として実施し、大きくなるまで見に来てもらうような、リピート型観光を行います。
- ・ 年間を通じて実施できるよう、多彩な体験メニューを揃えます。

#### イ 林業体験のできる森林リストの作成

#### ウ インストラクターの役割

- ・ 森の重要性と植物等の説明
- ・ 森林作業の必要性の説明と作業指導
- ・ 木材の特性説明
- ・ 木工製品作製の作業指導

#### エ 交流拠点の整備

- ・ 天候に左右されず、多くの体験者が一同に集まれる多目的施設を整備し、森林についての学習や地域との交流の場とする。
- ・ 木工体験のための工具の整った教室の整備を行い、体験学習の幅を広げる。

#### オ 山林の路網の整備

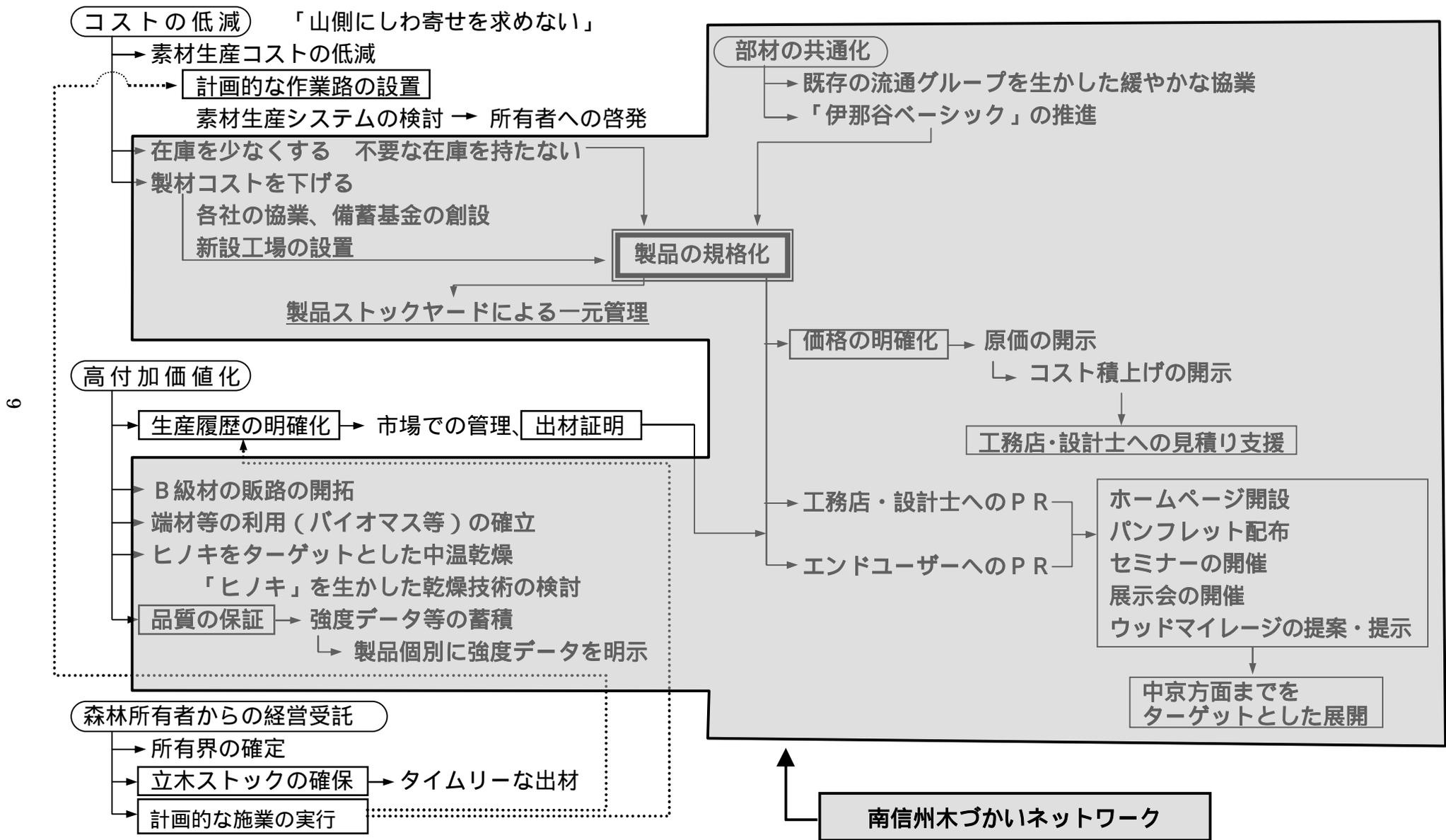
- ・ 体験者が現地の近くまでいける作業道等の整備
- ・ 森林浴、散策ができる遊歩道(小径)の整備

# 地域の資源が循環できる森林・林業体系図

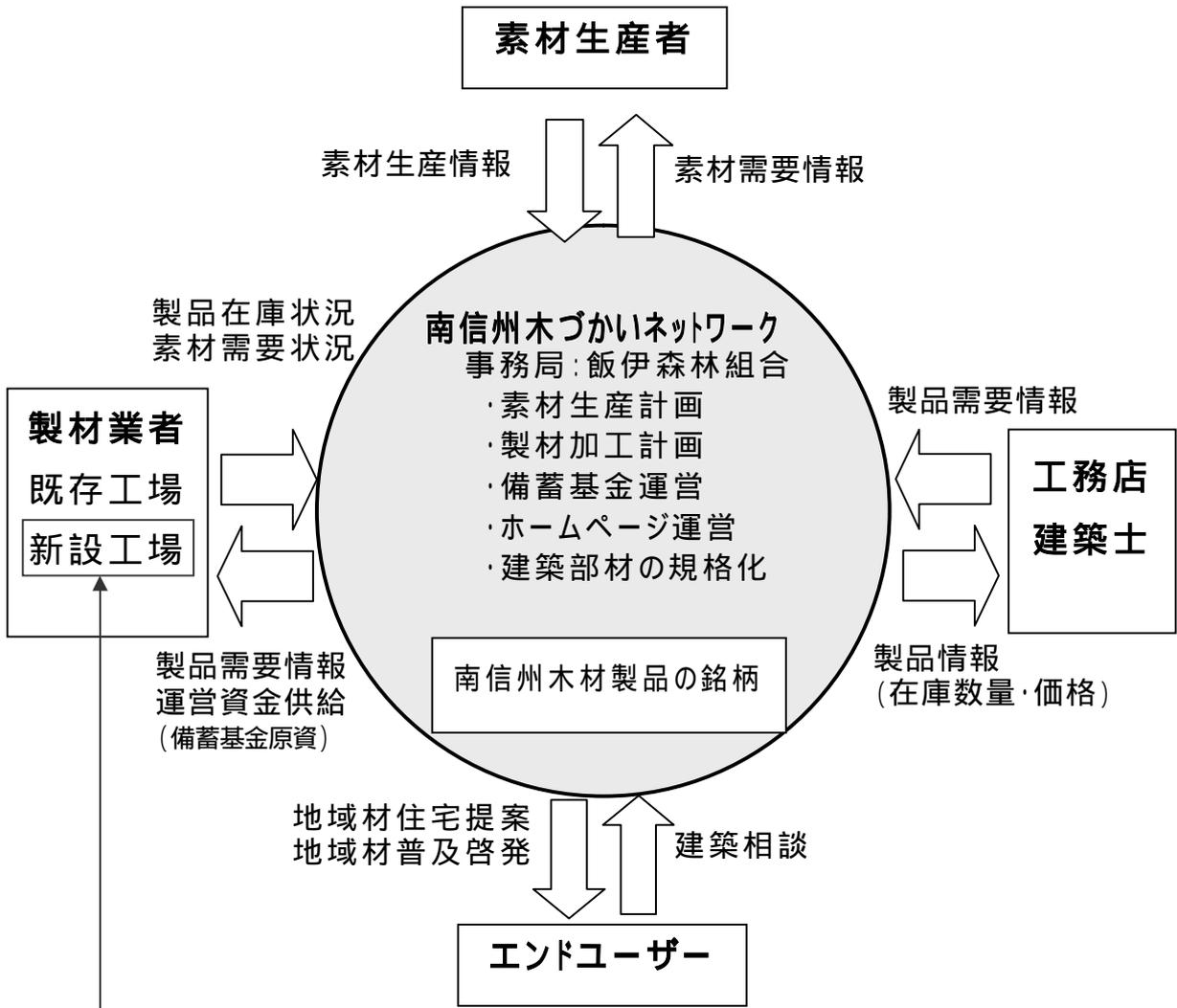
図 1

山 側

街 側



# 南信州木づかいネットワーク



飯伊木材流通センターに設置  
製材施設、高温木材乾燥機、グ  
レーディングマシン、4面自動カナ盤

# 「南信州木づかいネットワーク」の概要

## 1 目的

南信州地域の最大資源である森林を活かした自立的・資源循環型の地域産業である林業(木材生産・製材・流通業)を地域の最も重要な基幹産業のひとつとして位置づけ、地域の活性化に結びつける。そのためには、身近な森林の間伐等を推進し、建築部材として使える森林資源に育成するとともに、地元の木材を使った家づくりを促進し、計画的な木材や製材品の生産を図ることにより、地域の安定的な雇用の場としての林業を確立する必要がある。

具体的には、域産域消を始めとする地域材の活用を図るため、地域の素材生産者・製材業者・流通業者・森林組合並びに工務店・建築士及び行政等が連携して、木材生産から製材加工、建築を主体とする木材利用に向けての、「南信州木づかいネットワーク」を構成し、情報の共有化、素材・製品の流通管理及び南信州木材製品の普及啓発を図る。

## 2 事業内容

### (1) 素材・製品・住宅等の情報の収集、分析及び提供に関する事業

- インターネット等による情報の収集、分析及び提供の実施
- 「南信州木づかいネットワーク」ホームページの開設運営
- 価格検討ワーキングの開催
- 製品情報の管理
- 製品流通の開拓、検討
- 設計事務所・工務店へのアプローチ
- ・地域材住宅の企画・提案
- ・建築部材の共通化・規格に関する検討
- ・南信州木材製品の見積もり支援
- 木質バイオマス利用の推進

### (2) 品質向上に関する事業

- 技術者の資質向上のための研修
- 南信州木材製品の規格化に関する検討

### (3) 南信州木材製品の普及啓発に関する事業

- 南信州木材製品の銘柄化、森林認証材の検討普及
- ウッドマイルージの概念を取り入れた、環境負荷コストを意識した木材流通の普及
- 各種フェア等への参加
- ・県内外における住宅関連フェア等に参加し、製品等のPR及び営業
- 南信州木材製品のPR活動の実施
- ・関係諸団体、市町村及び消費者等への説明の実施及び要請活動
- PR用パンフレットの作成
- その他広報活動

### (4) 南信州木材製品の備蓄基金の創設

- 構成員への資金援助
- 南信州木材製品の備蓄
- 基金規模1億円

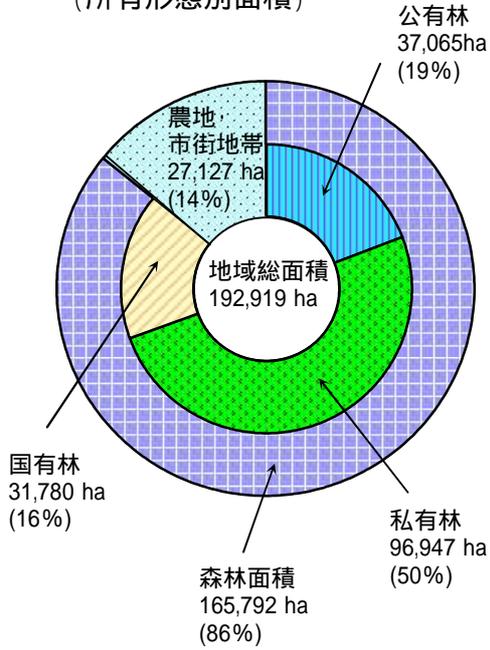
## 3 構成員

素材生産者、製材業者、流通業者、工務店、建築士、森林組合、エンドユーザー、行政

# 森林・林業の概要

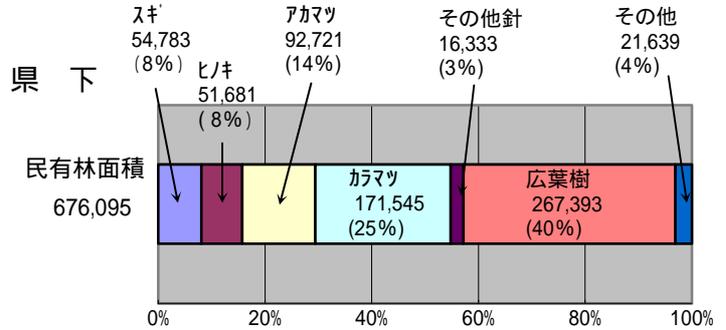
資料1

## 1 下伊那地域の森林現況 (所有形態別面積)

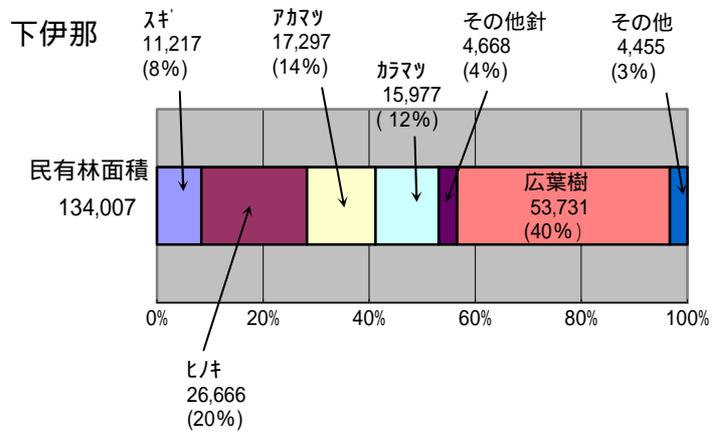


## 2 民有林の樹種別構成割合

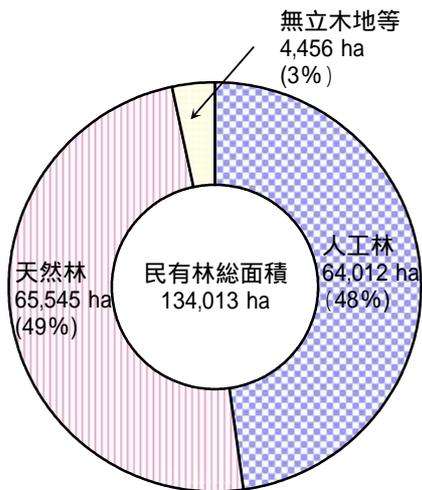
(単位: ha)



## 下伊那

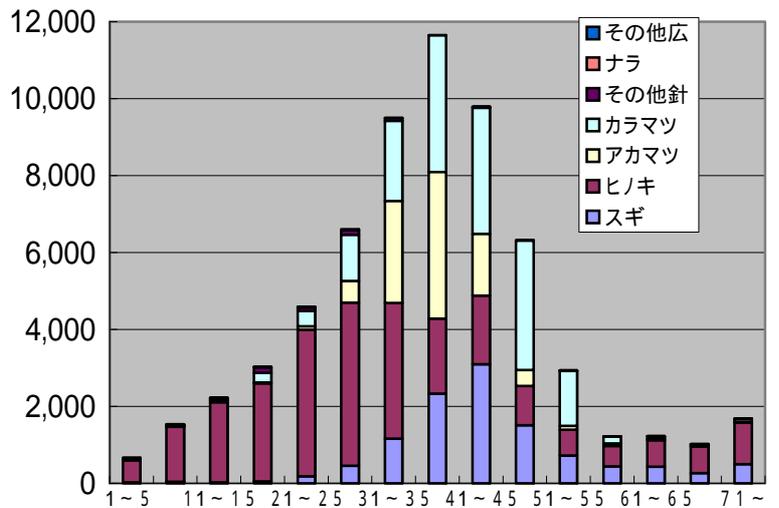


## 3 民有林の人工林・天然林別面積



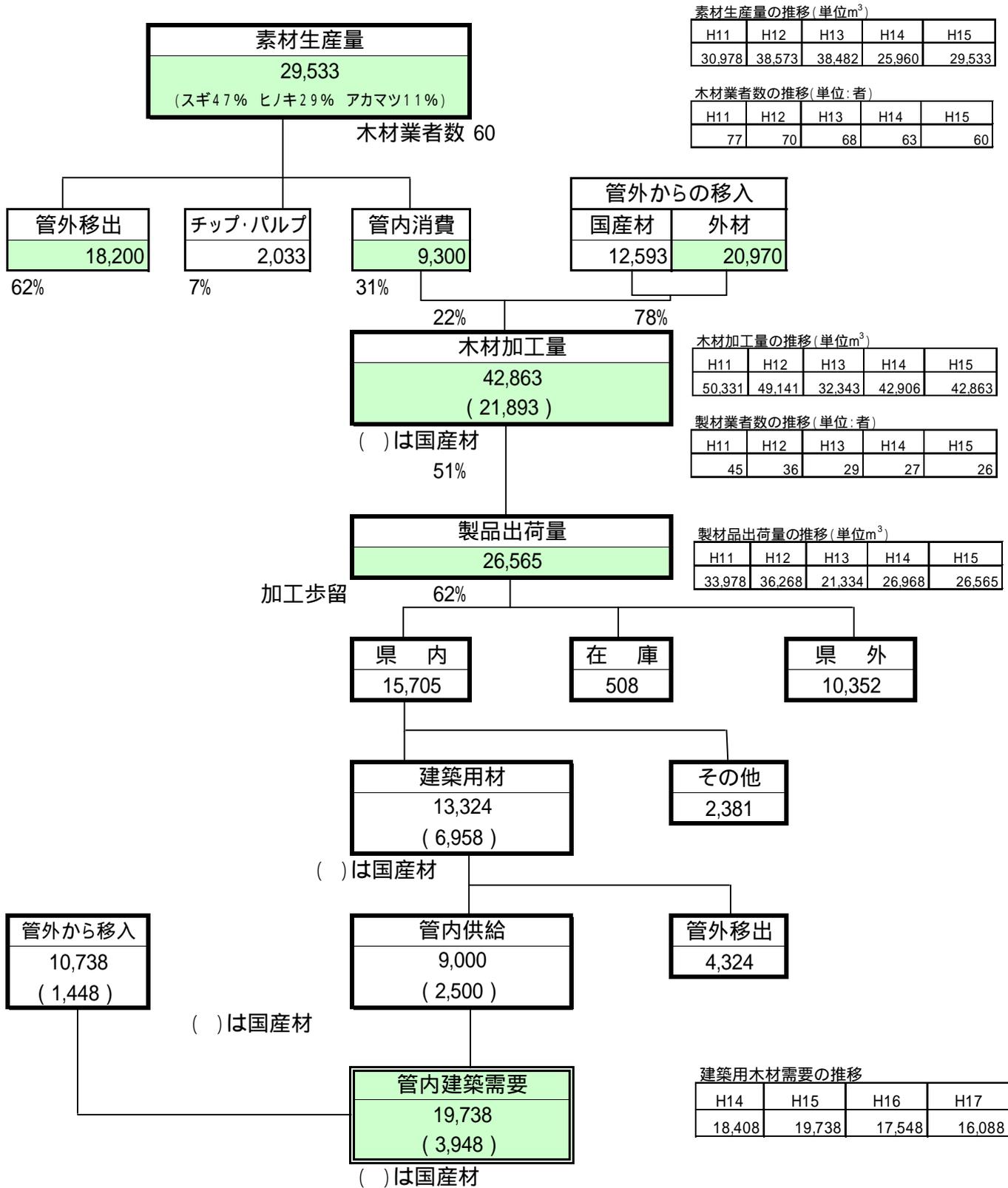
## 4 林齢別人工林面積(民有林)

(単位: ha)



# 木材の流れ(現状)

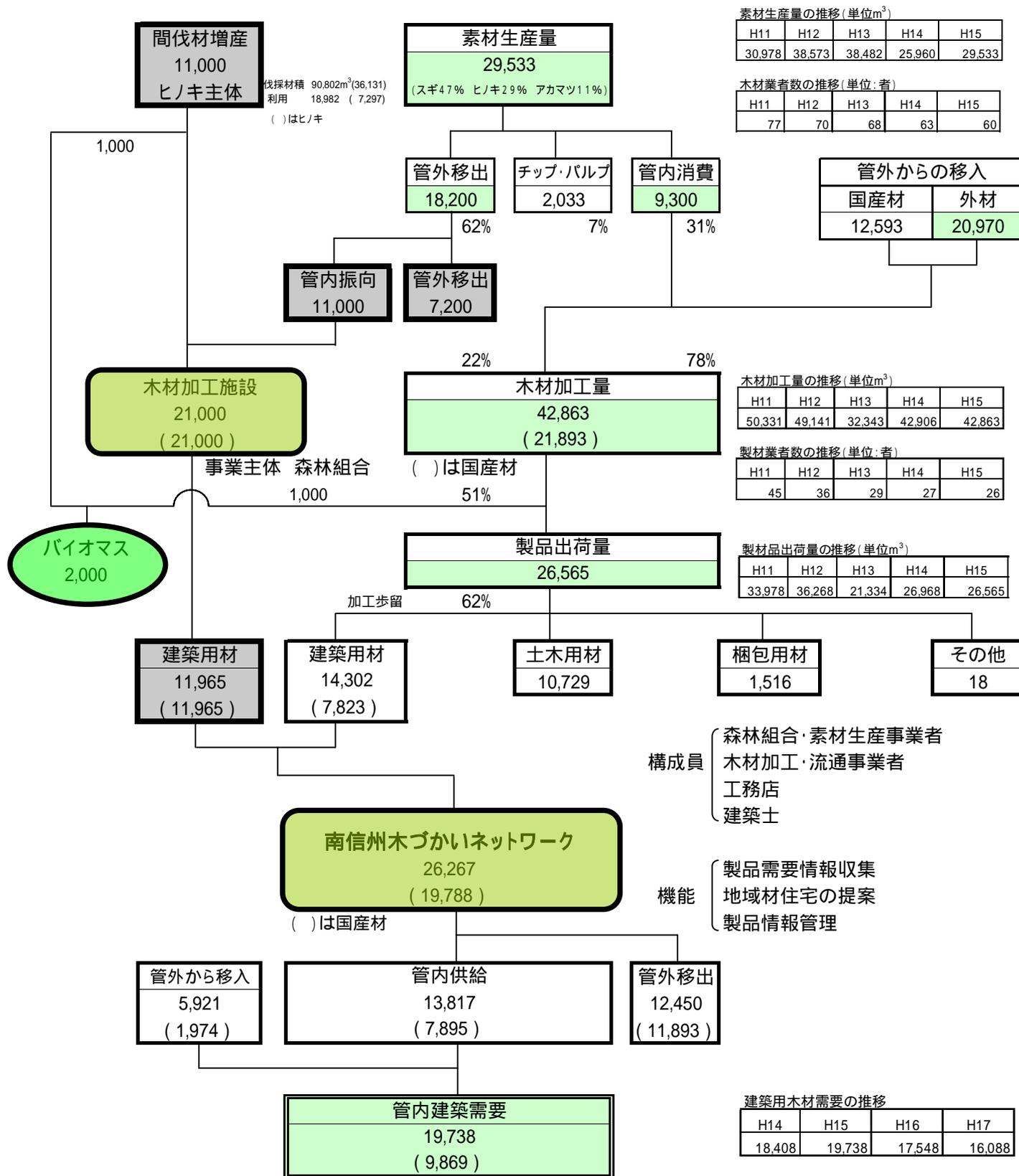
(単位:m<sup>3</sup>)



(H15長野県木材統計から推定)

# 木材の流れ(計画)

(単位:m<sup>3</sup>)



( )は国産材

(H15長野県木材統計から推定)

## 体験旅行受入状況

体験旅行受入状況の変遷（2006年は見込み）

## 学生団体

西暦	2001	2002	2003	2004	2005	2006	
団体数	84	107	101	109	109	105	
人数	9,500	15,000	15,000	16,500	17,000	15,500	
プログラム	21,000	32,500	35,500	45,000	46,000	44,000	

## 一般団体

西暦	2001	2002	2003	2004	2005	2006	
団体数	62	91	117	130	200	200	
人数	700	2,000	3,500	4,000	6,000	6,500	
プログラム	2,000	2,500	4,500	4,500	6,500	7,000	

## 宿泊利用団体数

西暦	2001	2002	2003	2004	2005	2006	
学生団体	48	68	69	76	88	89	
一般団体	35	64	20	35	50	50	

## 延べ宿泊数

西暦	2001	2002	2003	2004	2005	2006	
旅館・ホテル	6,000	10,000	10,500	12,000	12,000	12,000	
大平宿	2,400	2,600	2,000	2,200	2,600	2,200	
農家泊人数	2,800	4,500	4,850	6,600	7,200	7,500	
農家泊校数	20	30	33	47	51	52	

## 全体としての傾向及び特記事項

- ・ 学生団体における農家民泊の要望が年々高まっている。
- ・ 宿泊利用率、プログラム利用数も比例して高まっている。
- ・ 2002及び2003年の一般団体数の伸びは「桜守の旅」（日帰りが中心）の企画実施による影響が大きい。また、2005年については「和菓子探訪の旅」が同様の効果をもたらした。

## 体験プログラムの種類別受入状況

体験種別	人数	%
市街散策・桜守の旅	5,500	10.5
自然体験・環境学習	1,300	2.5

農林業体験	25,200	48.0
Cf.2005(内林業)	80人	
Cf.2006( " )	240人	
味覚体験	5,500	10.5
伝統工芸クラフト体験	1,900	3.6
スポーツ体験	9,100	17.3
原生活体験・野外活動	2,700	5.1
観光見学地・その他	1,300	2.5

(2005年度実施に基づく)

#### 全体的としての傾向及び特記事項

- ・ 農業体験が全体の5割近くを占め、農業と関係の深い味覚体験を含めると6割近くに及ぶ。また、農林業体験には農家民泊及び農家体験も含む。
- ・ 学生団体数の2割(20校)以上の利用があった種目は下記のとおりである。  
ラフティング(60) 農家民泊(51) 溪流釣り(43) マウンテンバイク(25)  
いちご狩り+ジャム作り(28) 五平餅作り(27) 乗馬(25) そば打ち(24)
- \* これ以外にも多くのプログラムが利用され、数多くの種目を選択できることがこの地域の体験型観光を推進する上での強みである。

#### 体験旅行事業に関わる地域への直接的経済効果(2004年の場合)

学生団体が全体の90%以上を占める。

表1 / 各分野別直接消費金額(推計)

体験プログラム費用	148,000千円
宿泊料金	111,000千円
昼食・弁当代	18,000千円
観光土産代・観光バスその他	57,000千円
合計	334,000千円

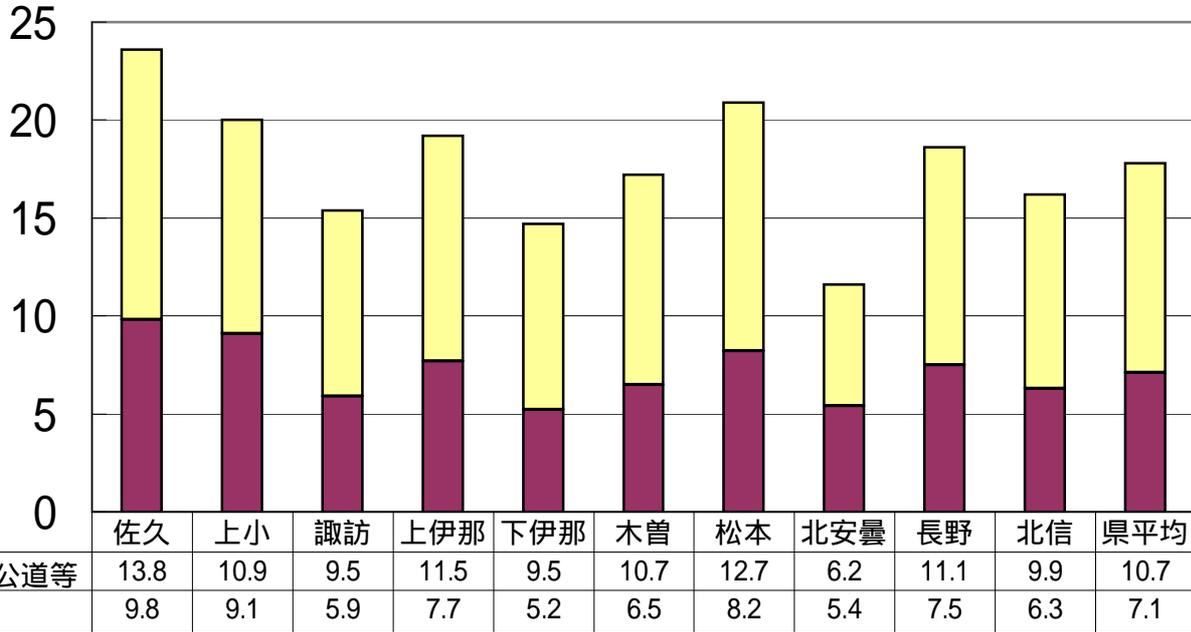
- \* 国内観光消費額のツーリズム乗数(地域内経済循環指数)によると約2.4倍の経済効果があると予想される。

2000年国土交通省観光部調査より

### 林内道路(公道、林道及び作業道)密度

(平成17年3月31日現在)

(m/ha)

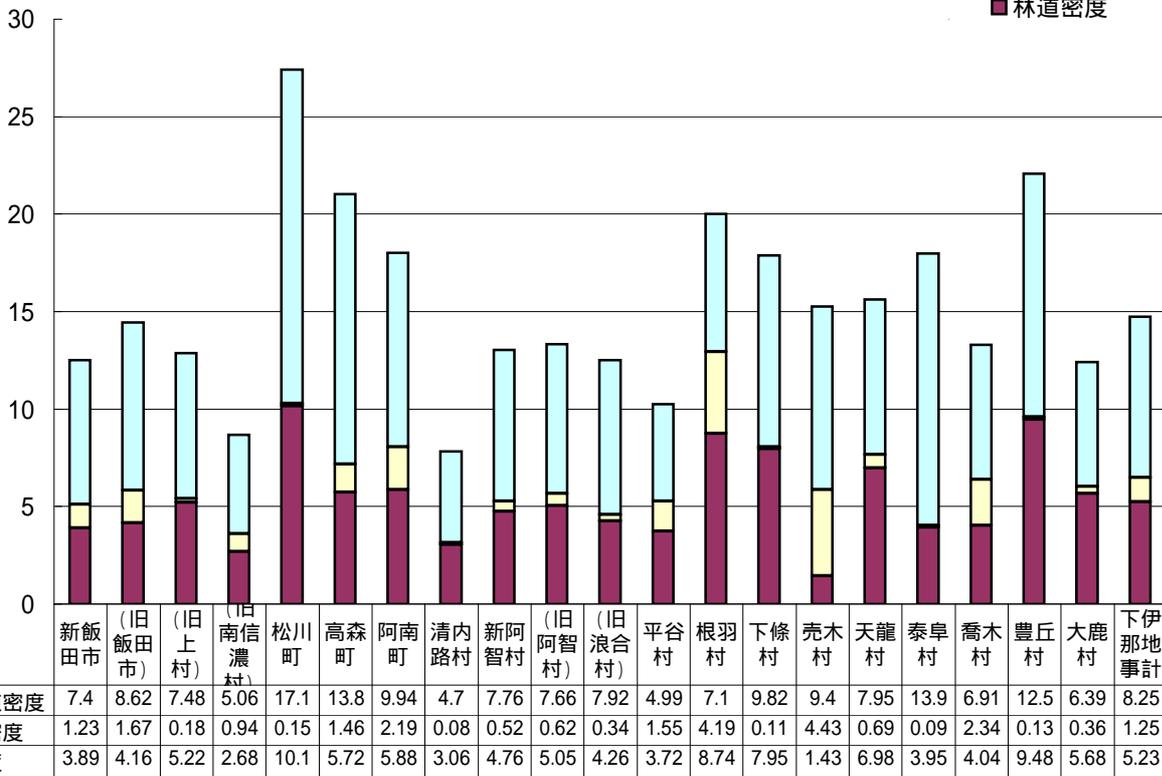


### 下伊那地方事務所管内 市町村別林内道路密度

(平成17年3月31日現在)

(m/ha)

■ 林内公道密度  
■ 作業道密度  
■ 林道密度



## 用語集

用語	説明
伊那谷ベーシック	『伊那谷の森で家をつくる会』が提案している、地域材の家づくりに対する考え方。地域の景観・気候等を土台とし、地域で生産される木材の性質に合った構法・設計などがまとめられている。
インストラクター	先生、指導員。技術を指導する人。工業技術、スポーツなどの分野に於いて様々な指導を行う立場の者をさす。
ウッドマイレージ	消費した木材量に産地からの輸送距離を乗じたもの。 輸送過程の環境負荷を判断する指数。
エコツーリズム	自然・歴史・文化など地域固有の資源を生かした観光を成立させること。
エンドユーザー	商品を使う人と定義されるが、ここでは、施主及び住宅建設予定者を指す。
グリーンツーリズム	農村や漁村での長期滞在型休暇。都市住民が農家などに滞在し、農作業の体験や地域の歴史・自然に親しむ余暇活動。
グレーディングマシン	自動木材強度計測器（試験機）。含水率（乾燥）や木材強度を測定する。
小径（こみち）	林内を散策等ができるよう整備された遊歩道などの細い道。
ストックヤード	一時的に保管しておく場所。
スローライフ	生活様式に関する思想の一つで、地産地消や歩行型社会を目指す生活様式を指す。速さや効率を重視した現代社会とは対照的に、ゆっくりと余裕を持って人生を楽しもうという生活様式。
バイオマス	生物起源の有機物の総量。 バイオマス燃料は、化石燃料とは違って、同じ場所で再生産可能、循環的に利用でき、地球温暖化を防ぐ環境保全上有効な燃料。地球温暖化の原因となっている二酸化炭素を新たに増大させない資源である。
ビジョン	未来像
ペレット	間伐材や製材等の木くずを破碎して木粉にし、水分を取除いて粒状に高圧で固めて作った木質燃料。 木材に含まれるリグニンという成分を熱で融解し固着させることで成形するので、接着剤など化学製品や添加物を一切使用していない。燃やしても有害なガスを出す心配はない。